

## ご挨拶



校長の小田 哲也（おだ てつや）と申します。  
本校勤務2年目となり、本年度から校長として  
勤務することとなりました。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

本年度、4月5日に第1学期始業式を行い、本年度をスタートいたしました。また、4月10日には、第78回入学式を執り行い、46名の新入生を迎え入れました。今年1年間、生徒数120名、職員数30名で様々な教育活動に取り組んで参ります。

本校では、校訓「**自主**」「**勤勉**」「**感謝**」のもと、小郡市がめざす、「夢や願いに向かって逞しく進み、人とつながりあって心を働かせ、喜びあふれる豊かな郷土をつくりだす小郡の子ども」の育成を期し、教育活動を進めて参ります。

そこで本年度は、「人の役に立つことの出来る人間になるために、自分から主体的に行動を起こす」「郷土の未来について考えたり、貢献したりすることについて積極的に考える」ことのできる生徒を育てていきたいと考え、学校教育目標を

**「集団の力を活かして、よりよい社会の創り手として「自走」できる生徒の育成**」  
としました。

また、重点目標を

**「集団の力を活かして、「自律」の習慣と「対話」のスキルを高め「主体性」を育てる**」  
と設定いたしました。

私自身が子育てをしていたときに常に意識していたことは、我が子の「社会的自立」です。「社会的自立」には人それぞれの形があると考えていますので、どのようなものが正解であるということはいえませんが、我が子が、義務教育を終える15歳の時に、「高校進学」を選ぶのか「就職」を選ぶのか、きちんと本人自身で選択することができる力を育てておきたい。そして、成人を過ぎたころに「社会人」として一人で生活を立てることができるようにしてあげたい、そのような思いで、我が子に接していたことを覚えています。

保護者の皆様には、中学校生活を終えた先のゴールは「高校進学」だけではないことや、最終的には、本人の力で「社会の荒波」を乗り越えていくことができる力を育てておくことが肝要だということをお頭に置いておいていただきたいと思います。

また、この数年間の新型コロナウイルス感染拡大防止の取組の負の遺産が、見えはじめています。誰が悪いわけでもないけれど、コミュニケーションで人とつながる経験が不足しているように感じています。そこで、地域のコミュニティを活用させていただきながら、生徒たちが、豊かに人とつながっていく経験をして欲しいと考えておりますので、宝城中学校区の地域の皆様方には、様々なところでお願いごとをするかと思っております。どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

子どもたちが自分自身の将来や夢、可能性に対して希望を抱き、自分の成長や変化を実感しワクワクすることの出来る、魅力ある学校づくりを推進していきます。引き続き、宝城中学校に対する皆様方の温かいご支援をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。